

海と星のミュージアム

春の地 青少年の家

春の地 青少年の家

春の地 青少年の家

春の地 青少年の家

集団宿泊活動指導者研修会

春の地 青少年の家

少年自然の家創設
の理念を継承しつ
つ現代的な課題に
対応する教育機関

春の地 青少年の家

集団宿泊活動指導者研修会



海と星のミュージアム



香々地青少年の家



少年自然の家創設の理念を継承しつつ現代的な課題に対応する教育機関

川の岩からの飛び込み体験

- ・飛び込むときの勇気
- ・ふわっと宙に浮く感じ
- ・着水の衝撃
- ・体が沈む込む感覚

・飛び込まなければ決して見えない川底からの景色

・水面に顔がでるまでの引き延ばしたような時間の流れ

- ・呼吸ができたときの安心感とまぶしい日の光
- ・仲間の歓声と一体感の共有

香々地青少年の家

KAKAJI SEISHONEN NO IE

〒872-1202

大分県豊後高田市香々地5151

Tel : 0978-54-2096 Fax : 0978-54-2152

[メールによるお問い合わせはこちらから](#)



ホーム



施設案内



利用案内



活動プログラム



事業案内



交通アクセス



リンク集



体験活動とは

体験活動とは、主として「体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験」のことを指します。体験活動は、直接自然や人・社会等と関わる活動を行うことにより、五感を通じて何かを感じ、学ぶ取組を広く包含しています。

青少年の家

仲間とのコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、異なる他者と協働する能力等を育む。

香々地青少年の家の海、川、森、星を活用した自然体験活動を通して自然に親しむ態度や豊かな情操を育むとともに、集団での宿泊体験を通して自立心や望ましい生活習慣の素地を養う。

青少年が仲間と共に自然の中で体験的な学習と生活を通じて成長する家のような所

少年自然の家創設の理念を継承しつつ現代的な課題に対応する教育機関

i) 生活・文化体験活動

ii) 自然体験活動

iii) 社会体験活動

集団宿泊活動の 学習指導要領における 位置づけ

資質・能力の三つの柱

- ▶ 生きて働く知識及び技能の習得
- ▶ 未知の状況にも対応できる **思考力、判断力、表現力**等の育成
- ▶ 学びを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力、人間性**等の涵養

何ができるようになるか

新しい時代に必要となる
資質・能力の育成と、学習
評価の充実

「**社会に開かれた
教育課程**」の実現

各学校における
「**カリキュラム・
マネジメント**」
の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる
資質・能力を踏まえた教
科・科目等の新設や目標・
内容の見直し

どのように学ぶか

「**主体的・対話的で深い
学び**」(アクティブ・ラー
ニング)の視点から学習
過程の改善

【小学校】

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、**自然や文化などに親しむ**とともに、**よりよい人間関係を築く**などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

【中学校】

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、**自然や文化などに親しむ**とともに、**よりよい人間関係を築く**などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

集団宿泊活動の意義

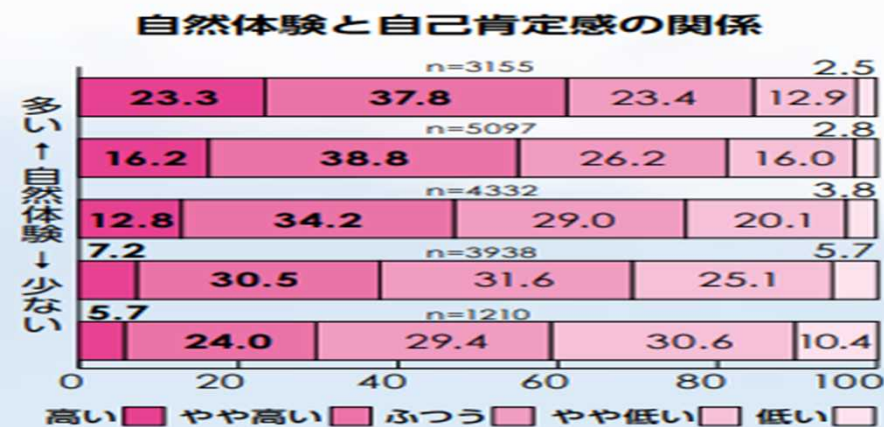
1 自然体験や生活体験が「主体的な学び」の基盤となる「自己肯定感」を高める

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」といった自己肯定感を高めることも大切

自然の中で生活をともにする集団宿泊活動では、自己肯定感を高める自然体験活動や生活体験を行うことができ

「主体的な学び」の基盤を育成



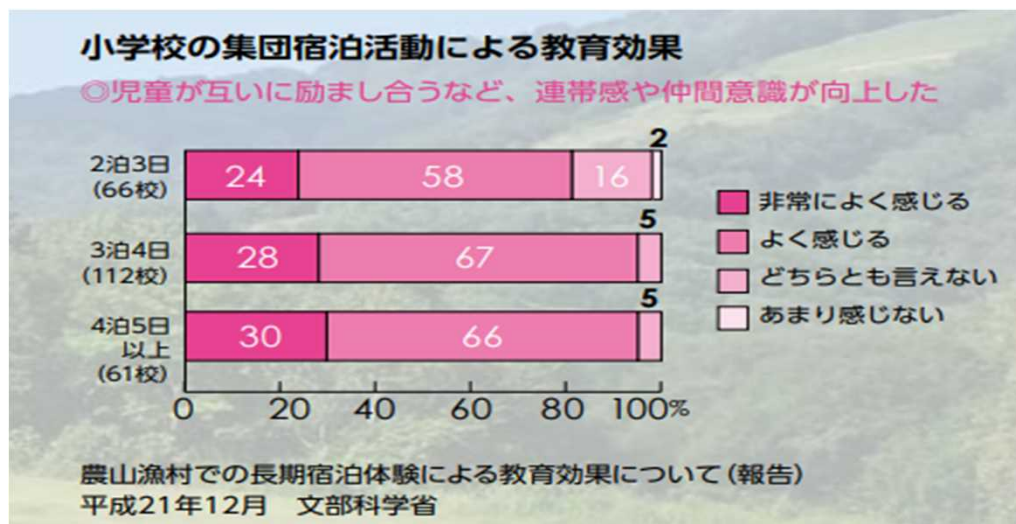
「青少年の体験活動等に関する実態調査」
平成 28 年 5 月 国立青少年教育振興機構

集団宿泊活動の意義

2 集団宿泊活動が「よりよい人間関係を形成」し、「対話的な学び」ができる学級づくりにつながる

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

「対話的な学び」の視点からは、安心して自分の考えを伝えることができる学級であることも重要
感動体験を共有することで、学級への「所属感」や「連帯感」が深まり、「支え合う」「高め合う」「学び合う」学級に



集団宿泊活動の意義

3 実感を伴った理解は 「深い学び」にもつながる

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

「個別的な知識に体験が伴うことで、その意味を実感し、深い理解につながる集団宿泊活動における自然の中での活動や他者との共同生活で、学んだ知識及び技能、身に付けた思考力、判断力、表現力等を生かすことで、目指す資質・能力が育成される



各小・中学校のめあて・目標

自分の役割と責任

心身の鍛練

自然に親しむ心

親睦・交流・仲間作り

自立・創造

時間やきまりを守る

思いやり、助け合いの心

各教科

登山に求めるもの
爽快感、癒やし、リフレッシュ等、家族のレジャーさまざま

青少年施設における登山活動＝個人や家族で余暇に楽しむ登山と共通する要素があるが「教育活動」

教育効果を高める積極的な仕掛け

最終的にこんな雰囲気が終わったらいいな
活動全体のゴール像のイメージ

教育的な目的・意図

〇〇を通して教育的な成果を求める

(例)

- ・ 友だちと協力し、共通の体験を通して感動や達成感を分かち合う
- ・ 困難にもめげずに最後まで頑張り通す

自然の心地よさに触れる

虫や花などに興味・関心をもつ

友だちと楽しい時間を共有する

価値づけられた
価値ある
貴重な
「体験」

徹底した安全管理

トータルのリスクマネージメント

事故を未然に防ぐ対策

ハチ トラップ
雷警報
安心・安全な登山道づくり

万が一事故が起きてしまったときの対策

ハチ対処法 ポイズンリムーバー その他
無線など連絡手段・連絡体制の確認

そっと見守ってあげたくなるような夢中になっている子どもの姿

雰囲気・士気の「波・ピーク」

目的に応じて、日程のどの部分にどのような活動をおいたらどう
いった成果が得られるのかしっかり見極める

実地踏査（利用団体、所員）

先入観からの変化による対応の遅れを取り除く
子どもの学びを支える姿勢・意識の共有

つけたい力に沿った活動プログラムとは？

プログラム(例)から考える

	午前	午後		夜
1日目	所内OL 自然・協力	創作活動(勾玉) ものづくり	野外炊飯 食の大切さ	キャンプ ファイヤー 親睦
2日目	いかだ活動 協調性	奉仕活動 奉仕の心	磯観察 自然に親しむ	

多くの活動ができる＝活動の充実・目的の達成度？

指導者が

どんな目的や思いを持って、プログラムを企画するか

キャンドルの集い



キャンプファイヤー





すべてを忘れても
なお 心と体に
残るもの

体験的な学習と生活



圧倒的な「学び」と「体験」が待っている

世界観が変わる 未来がひろがる